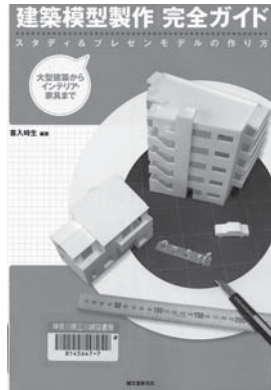
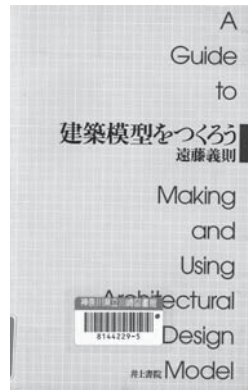


〈県川所蔵の本をみて作ってみた〉

建築模型の本を読んで純粋階段を作ってみた（県立川崎図書館）

原田 暁

『ラクラク建築模型マニュアル』（エクスナレッジ 2009.8）
『建築模型をつくろう』（遠藤義則著 井上書院 2010.6）
『建築模型製作完全ガイド』（喜入時生編著 誠文堂新光社 2010.9）
『超芸術トマソン』（赤瀬川原平著 白夜書房 1985.5）※県立図書館所蔵



1 はじめに

模型というものは、モチーフとなった対象とは違った魅力を感じる様に思えます。単なる外見を写し取っただけではない、模型だからこそ引き寄せるものと言いますか。

例えば、昼食になにか高級なものを食べようとデパートのレストラン街を、ショーケースに納められた食品サンプルを眺めながらうろろうろしていたら、クリームソーダの模型に誘われる様に店内に入っしまい、クリームソーダは注文せずに味の濃いソース焼きそばを食べて帰った……。皆さんもそういった経験はないでしょうか。

本の蔵書点検をしていた際に、建築模型の本を見てそんなことを思い出しました。そうなりますと、自分も何か惹き付ける模型を作りたいと思うのが、人間というもの。

今回はそんないきさつで、県立川崎図書館の所蔵する本を用いて、個人的に建築模型を製作した体験をお伝えしたいと思います。

2 モチーフを探して・・・

とりあえず資料を読み、何を作るかを決めていこうと、本棚に並べられている建築模型の本の中身を確認しました。「入門書をつづけて何冊か読むことが、その世界に入っていくための最良のトレーニングになる」（※注）と立花隆も書いてい

ることですし、と見えそうな数冊を借りて自宅に帰りました。

選んだ資料は次の3冊。『ラクラク建築模型マニュアル』、『建築模型をつくろう』、『建築模型製作完全ガイド』。

どの資料も道具や材料の選び方、使い方、撮影方法、設計方法等が写真付きで解説されています。

書籍で指定しているメーカーのカッターや、スコヤなら持っているし、塗料はアクリルガッシュが使える。道具に関しては自前の物で何とかできそうだ……。自宅の布団の上で寝転がりながら借りた資料をペラペラと眺めました。



自前の道具でなんとかなりそうだ

どの材料、製作法を用いるにしろ、作るべき建物を決めなければ始まらないと、モチーフ探しを始めることにしました。

ブルジュ・ハリファ、サグラダ・ファミリア、安土城、サンシャイン 60、クフ王のピラミッド、メンカウラー王のピラミッド……。思いつく建物をネットで画像検索をしていきますが、どれもこれを作らねばという意欲が湧いてきません。

そんな時、枕元の本棚にある 1 冊の本が目につきました。

『超芸術トマソン』

芥川賞作家、赤瀬川原平の著作です。

トマソンとは、赤瀬川原平が定義した芸術の概念で、「不動産に付着して美しく保存されている無用の長物」のことです。扉が封鎖されてしまったために、そこに繋がっていた階段がただ上り下りするための存在になってしまった純粋階段。扉の横にあった扉を撤去してしまい、扉だけがただそこに存在する無用門などです。製作者が意図せずに作られている物がほとんどであることから芸術を超えたもの、超芸術とされています。

かつては外を歩いていれば時々見かけることもあったトマソンも、この頃は見ないなど思い、ならば建築模型で作ってしまえばと思いました。

意図して製作してしまった時点でそれは超芸術ではなく芸術なのではという問題はありますが、それはそれ、掲載されている「両国の純粋階段、無用ドア」をモチーフに選びました。これは、ひとつの建築物に 2 つのトマソンが付着しているのでお得です。

3 Look before you leap?

モチーフも決まり、資料で紹介されている材料をどの程度集めることが出来るのかを確認しに雑貨店に行こうと思ったところ、運悪く新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令されました。

早く作りたと思っていたところに水を差された形にはなりませんが、とりあえず、設計図から作ればよいのではないかと。そう思い、設計の方法を考えることにしました。

せっかくだから 3D-CAD を使ってみるか、ネットでフリーのソフトをあさり、県立川崎図書館が所蔵している 3D-CAD の本を借りました。

しかし、操作方法を確認したり、参考書を読むにつれ、建築模型を作る片手間に学ぶには 3D-CAD はいささかハードルが高いように感じました。

ならば、使い方の分かっている 2D-CAD を使うとしたらと考えましたが、立体図を描き、そこから部品図と組立て図を連動させながら作っていく道筋を想像すると、これではまるで仕事ではないか、趣味で作るものにそこまで労力をかける必要があるのだろうか、という疑問が湧いてきまし

た。

さらに設計図を作る場合、モチーフの写真では見えていない場所をどうするのか、そもそも、材料が店舗で買えるかもわからないのに設計図を描くのか。出鼻をくじかれた影響か、いささか気持ちが悪くなるようになっていきました。

緊急事態宣言が解け、6月になり、ようやく雑貨店へ行くことができました。デパートの入口で消毒をして中に入ると、店舗のある 7 階へ向かいました。

資料で紹介されている、スタイロフォーム、スチレンボード、スチレンペーパー、バルサ材、ヒノキ角材、金属板、金属棒、どれも店内で確認できました。

試しにスチレンボードという発泡スチロールを紙でサンドイッチした材料を 1 つ購入し、どの材料がトマソンを作るのに最適なのかは自宅に一旦戻ってゆっくり考えることにしました。

しかし、3冊の資料を見比べているうちに、どの材料が最適なのか分からなくなり始めました。加工する方法も 3冊のうち、どれを参考にすればよいのか、そもそも縮尺はどれにすればよいのか、1/100、1/50、1/30 のどれが最もいいのだろう。

欲しいジャムを選ぶのに 6 種類からなら選んでも、24 種類になると選べない。俗に言うジャムの法則の状態に陥りました。何から始めるか、どう作るかを決められずに考えているうちに当初の情熱が少しずつ冷めていきました。

頭の中を材料、製作方法が意味もなく回り、無為に時間が過ぎていきました。

息抜きのため、趣味として始めようと思っていたことが、いつしか負担になっていました。

気付けば夏が終わり、秋が過ぎて、冬に入ろうとしていました。

役割を果たせずに無為に壁に立てかけられたスチレンボードは、自重によってたわんでいきました。

4 Leap before you look

11月の終わり、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐための我慢の 3 連休。外出する気も起きず、壁に立てかけられたスチレンボードをじっと見ていました。

せっかく始めてしまったことだ。どうせなら完成をさせたい。そこで、なぜ作業が止まってしまったのかを考えました。

模型を作るのが目的だったのにその前段階の設計に手間がかかりすぎるため。使用する材料、その加工方法、3種類の入門書、フラクタルのように選

択肢が増え、どうやって製作していいのかわからなくなってしまうため。

ならば、止まってしまった条件を外して作業を行えばいいと思いました。

まず、3D-CAD など建築模型とは別に勉強が必要なものについては使わない。モチーフの写真に写っている部分のみを作る。材料は既に購入したスチレンボードにし、たとえ他の材料が優れていたとしても考えない。道具も現在所持しているもので作ることを優先する。縮尺は1/30にし、選択した理由は考えない。どの縮尺を選ぶにしても、それを判断する経験がないのですから。

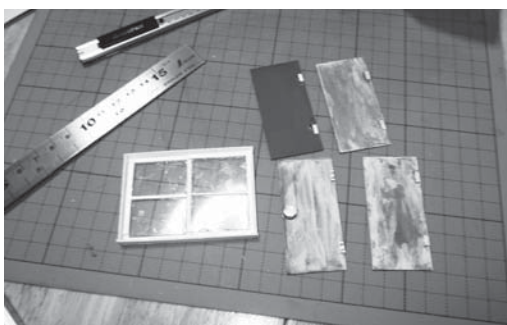
そう口の中で独り言つと、『ラクラク建築模型マニュアル』に掲載されているフローチャートを見ました。写真で見えていない部分である床、屋根、隣地の項目は必要ありません。

残りの部分を順番どおりに進めて行けばいい。ただ、製作に手間がかかるものを先に作るとまた行き詰りそうなので、敷地を作るのは最後にし、成果をすぐに実感できるものから作成しようと考えました。

思いっくままに手描きで設計図を描きました。ギリシャ神話でエピメテウスは、希望の入った箱を手に入れました。行動して後に考えることは悪いことではないはずです。

まずは、最も簡単だと思える扉に取り掛かりました。ネットで扉のカタログを探し、1/30にした寸法を設計図にいれました。スチレンボードを『建築模型をつくろう』を参考に、カッターで切っていきます。扉の色を塗り、乾いた後に汚れの色を重ねていきました。カッターを切る際の音や感触が心地よく感じました。スコヤで直角を確認するのが楽しく感じました。板を色で塗りつぶしていくこの時間をただただ、うれしく感じました。

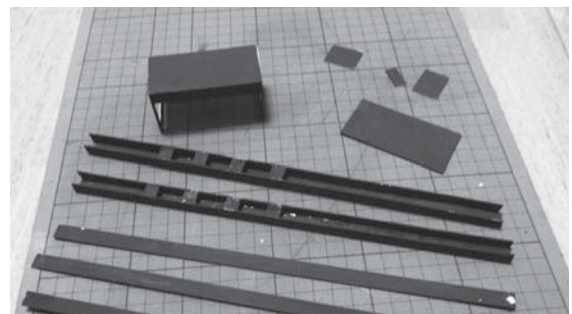
続いて窓に取り掛かりました。『ラクラク建築模型マニュアル』を参考に、アクリル板の縁に緑色を塗っていきます。それだけでガラスと同じ屈折率のように見えました。棧を作りアクリルと合わせて組み立てました。窓のように見えるのですが棧によってせっかくガラス風に加工した縁が目立たなくなりました。



扉と窓の完成

さらに純粹階段を作っていました。『建築模型をつくろう』の「鉄骨部材（H型鋼）を作ろう」を参考に溝形鋼を作り、階段の側桁を作りました。

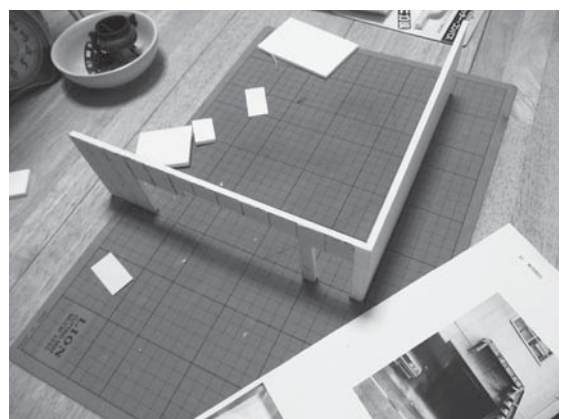
溝形鋼は材料力学的に頑丈な構造のはずですが、鉄鋼とスチレンボード、溶接とボンドでは強度に大きな差があるためか、くっついたと思ってもふとした拍子に外れ、何回も付け直しました。のりがはみ出して汚れていきましたが、そのまま進めることにしました。踏面、踊り場は溝形鋼用に作った板をそのまま流用して作りました。階段を組み立て終わると、『ラクラク建築模型マニュアル』の方法で錆のテクスチャーをつけていきました。



続々と完成していく無用階段の部品

気付けば、午前2時になっていました。何カ月もの間、右往左往と動けずにいたことが信じられませんでした。このままでは朝になると思い、横になり目を閉じました。

翌朝早く、追加のスチレンボードなどの材料を買うために再び雑貨店へ出かけました。購入すると急いで家に帰り、すぐに外壁の作成に入りました。モチーフの写真を参考に、ガレージのための穴をくり抜きました。続いて窓のための穴を開けました。壁同士を直角につなげるために角を45度にカッターで切りました。そして壁同士を直角に貼り付けました。1階の壁と2階の壁を合体させました。窓と扉をはめ、階段をつけ建築物が完成しました。敷地を作り、建築物を載せました。ふと見上げると夕日が窓から差し込んでいました。



直角に貼り付けるのは難しい



『超芸術トマソン』と同じ構図で

こうして「両国の純粹階段、無用ドア」が完成したのでした。意味のない堂々巡りの思考がほとんど時間を占めていたとはいえ、半年以上の時間が経過していました。

早速カメラを手に取り、『超芸術トマソン』と同じ構図で写真を撮りました。モチーフと同じように1階の扉は2階の扉へ繋ぐために作られた鉄骨の階段によってふさがれています。そのため扉は人を通すためではなく、純粹な扉として存在しています。



階段が作られたことによって存在意義を失った扉

その扉をふさいだ階段も目的であった2階の扉がふさがれて窓となってしまったため、上ることのみを目的として存在しています。

1階の扉は、ガレージを作るために壁に穴が開けられているため、たとえ階段がなかったとしても無用ドアとなってしまっているのです。

当初の目的である、人の心を惹き付ける模型が出来たのかは不明ですが、完成した模型をにんまりと見つめつけたのでした。



階段の先にあった扉はふさがれ、窓に改築されている

5 さいごに

最初に完璧なものを作ろうとすると動けなくなる。あまりに多くの情報を見てしまうと処理しきれなくなる。一度気持ちが冷めてしまっても、実際に作業を始めると行動ができる。そして手を動かして物を作ることは本当に楽しい。

文字にすると、電車の中吊り広告で飽きるほど見てきた自己啓発書のキャッチコピーのような言葉ですが、自分の体を通すととても大切な物の様に思えます。

おそらく、迷走しないで製作するためには入門書を「並べて」読むのではなく、「つづけて」読むべきだったのでしょうか。ですから、次の建築模型の製作には、1冊に絞って参考にしていきたいと思えます。そして、いつかは3D-CADや、木材など他の材料を1つずつ試し、前進していけたらと思えます。

メンカウラー王のピラミッド、クフ王のピラミッド、サンシャイン60・・・。世界には建築模型になるための無数の建築物があります。

皆様も今回紹介した資料などを参考に建築模型を製作してはいかがでしょうか。

はらだ・さとし

(県立川崎図書館 企画情報課 臨時司書)

※注『「知」のソフトウェア』立花隆著, 講談社, 1984, p97